一白山神社

石吉久右屋村より社家一人有 佐々木氏

一内城彼 井城氏出

内城久右衛門屋敷村より宗那村の通所

まして川耳より[3]分り[3]繁昌おり今弱石倉彼氏

いふ 後太平記二十九之巻奥州闘の条下に

尚武士の内に井城と有るハ尚彼をまて

有りとも姓名詳なる義光記山形へ

加勢の条下に内城孫四郎六十五人とあり

一記井城左近三平石寛永十二亥年死去

上りるとも

一深保彼

十二歳の内なり西目村深保村より彼記あり

酒井左衛門尉殿家士深保孫九郎といふ人

尚彼をのる孫まして正徳年中三子曾孫

といひし人を地へ下り流浪市の石孫より射

面をる孫平太後年又下向一雲宗伯への

文中に赤孫彼孫義彼孫彼

とあり赤孫ハ右の先をおり宗をまて

孫義次ハ深保の彼をまて孫九郎 後年孫麦

とい